

実習研修会～集う・学ぶ・生かす～

NPO 法人子どもの村 Kyoto

〒615-8221 京都府京都市西京区上桂東/口町 165 番地

助成事業の概要

傷ついた子供たち(被虐待児)は生活体験が乏しく、達成感の喜びも味わえないまま生育してまゝです。そんな子どもをかわいそうとの思いで養育するのでなく、心の傷を受け止め、信じてやるのが大切です。自立が大切で、普通の子育ても難しい時代に傷を負う子どもの育成は、皆が問題を共有し、把握した支援者の育成が必要になります。社会環境の激変する今日、問題が深刻化、多様化のスピードを加味して、関係施設・地域ともに社会で子どもを育てていくことが必要です。自然という環境に専門家を集い共に生活をし、話し合いで心を一つに養育すべきで、定期的な開催も不可欠です。今回は養育者、子どもたちと生活を共にワークで心を一つに環境づくりをします。受けた心の傷、トラウマは人間関係を難しく、生きにくい世界にしています。それを机上の理論だけで、短期で癒すことは不可能で、根気よい対応と変わらない養育者の熱意、実践が心を少し開きます。

事業の成果

今回の事業はまず、NPO 法人の10年の活動と、各養護施設との信頼関係が成立していて、この事業を中心にそれぞれの課題の本音を語り合えたことは主訴がしっかり把握でき、前に進めることができました。

閉鎖的な施設間もお互いの信頼関係で交流の場ができ、自分たちの不祥事はと、とかくしがちなことも客観的な問題としてとらえられることとなり

ました。子どもたちと共に行動することは、支援とは、ただ施すことでなく、傷ついた子どもに寄り添うことと認識され、養育はその環境に関わらなくてはならず、育てることだけで終わることはないと理解できたように思います。

従来、このような環境の子どもたちは問題の発生を心配して、人里離れたところで育成されることが常識となっていました。しかし、オープンにすることや、事実を告知することで施設内の虐待も防ぐことができ、今までの守りの姿勢から、これからの子どもの自立のために何か手を貸すことによって、生活の指針もしっかり持てるようになったのではないかと思います。このように結果を数字で表せない精神的なものは子どもたちの成長の過程を見るほかはなく、子どもが明るく、前向きに日々過ごしていることを感じてもらうより他ないです。



成果の広報、公表

このような精神的なことは守秘義務、個人情報

等もあり、また興味的に広報していくことはむずかしいです。

長年受けた虐待という傷はその倍、3倍とケアにかかるといわれています。一度や二度の支援の試みに結果が出たと公表していくものでないかもしれません。

しかし、「YOUの家」としては、そんな18歳前後の子どもを預かり、社会に出そうと色々な現象を見た時、その結果はこれからの養育者が考えていくことも大切と考え行動しています。

それは愛育時代の子育てがどんなに大切に生きるということに関わってくるか。少しずつでもホームページなどで、子育ての大切さ、これからの日本に子どもの力がどんなに必要か考えてほしいです。現在のように、そばにいる子どものことを忘れ携帯に夢中な大人に、子どもは「私のそばにいて」と叫んでいることを。子育ての大切さを忘れた子どもへのまなざしはいずれ私たち、自分の身に返ってくることを広報したいと考えます。

ちは今後より多くの予算捻出を見出し、実践を試みるよう人材を募集して続けていきたいと考えます。

■ 今後の展開

支援者のケア、養育者自身のケア、そして取り巻く家族の信頼関係を築くかかわりは、今後も必要なことで継続しなくてはならないと考えます。本来、助成金が単発でなく社会の課題としてこの問題に対して長期に助成いただけるとありがたいことですが、これからもこの事業は助成先が異なってもこの趣旨をうたえて、事業として進めていきたいと考えています。個人情報、守秘義務の課題は残されていますが、今後は子ども一人一人の課題を明記して、社会全体で一歩ずつ支援していく方向にもっていきたいと考えています。数字で表現できる科学的な事業だけが生まれるのではなく、心の問題は生きることの課題でもあり、机上の理論でなく、もっとヒューマンサイエンスとして実践する研究所があってもいいと考えます。私た